

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 加藤 吉康

論 文 題 目


Biological and conditional factors should be included when defining
criteria for resectability for patients with pancreatic cancer

(International Association of Pancreatology による膵癌に対する
新たな切除可能性分類の検討)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

柳野正人 

名古屋大学教授

委員

藤城光弘 

名古屋大学教授

委員

吉川史隆 

名古屋大学特命教授

指導教員

小沢聖孝 

論文審査の結果の要旨

別紙 1-2

今回、広く用いられてる NCCN 分類に比して IAP 分類では、R/BR/UR-LA の 3 群間に有意な生存成績の差が認められ、多変量解析においても術前リンパ節転移や PS は独立したリスク因子となることが確かめられた。NCCN 分類で R と分類される中からより腫瘍生物学的に予後不良な一群を BR と分類することで、術前治療の導入による予後改善の可能性や、UR-LA と同様に予後不良であった BR-Anatomical には conversion の観点からの長期の術前治療が必要である可能性が示唆された。ただし、CA19-9 のカットオフ値に関しては検討を要すると考えられ、本研究は $\geq 1000\text{U/ml}$ を提案した。IAP 分類では PET 陽性もしくは生検陽性での術前リンパ節転移の診断を要するが、MDCT での代用も十分に可能な結果であった。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 学会発表レベルで retrospective な報告が散見され始めたところで、未だ IAP 基準に則って診療している報告は無い。現在当院消化器外科においても NCCN 基準に従って治療方針が決められているが、今後 IAP 基準に基づき borderline (BR) の対象を広げ術前治療の適応を拡大し予後の改善を企図する臨床試験を行う可能性が考えられた。
2. 本邦において 2010 年頃まで resectability の概念が存在せず、本研究は 2001 年からの症例の検討の為、UR に対しても切除先行例が多数存在した。現在 BR や UR-LA に対して手術先行することは無く、今後新たに各 resectability status に対する純粋な手術の力をみることは無いと言える。また、術前治療は放射線の有無を含めて千差万別であり、特に近年のレジメン (FOLFIRINOX、nab-PTX) は以前のものより遥かに強力であり、化学療法先行例は除外し検討された。resectability の評価として純粋に resection の力をみている。
現在、病期 (cStage) よりも resectability に因って治療方針が決められている。resectability はもともと切除 status (R 因子) に関わる事ではあるが、R0 の為に治療するわけではなく生存率の向上を目指すのが最終目的である以上、OS を主目的とするのは妥当と思われた。
3. American society of clinical oncology による 1600 例規模の検討から CA19-9 のカットオフは 500U/ml とされた (Khorana AA, et al. J Clin Oncol. 2016;34(21):2541-56)。リンパ節転移の予後に与える影響は本邦の膵癌取り扱い規約第 7 版が引用されている。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	加 藤 吉 康
試験担当者	主査	柳野正人	副査 ₁	藤成光弘
	副査 ₂	吉川史隆	指導教員	小沢 聡彦
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膀胱切除可能性分類としてのIAP基準の現状と展望について 2. 解析を行った対象について 3. IAP基準のBR-Biologicalの定義の根拠について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				